

入社動機「企業イメージよい」が2年連続の1位。 「転職」志望高まる。

当社では例年、3月から4月にかけて県内企業の新入社員を対象に意識調査を実施している。今年
は645名から有効回答を得た。

「企業イメージがよい」が2年連続で入社動機のトップとなり、また、新入社員の5割以上が就職
した企業に「定年まで勤めたい」と回答するなど安定志向は根強いものの、2割は「転職」を選択肢
に入れており5年連続で増加した。

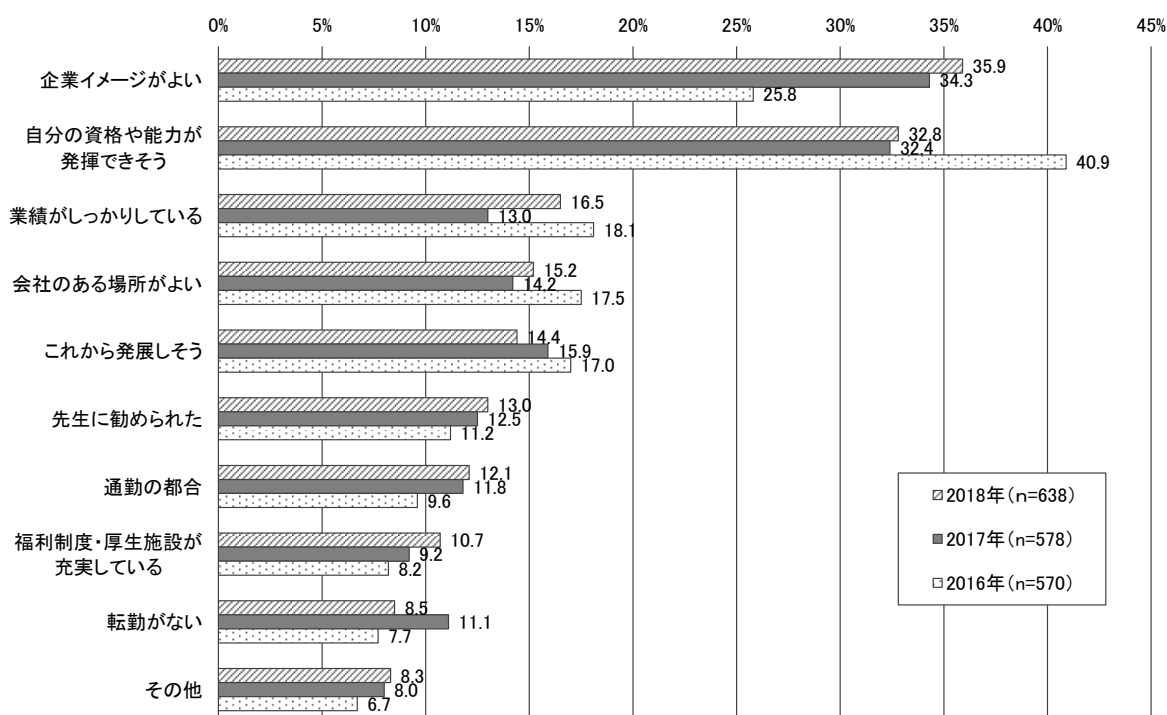
- ◇調査名：「新入社員意識調査」
- ◇調査時期：3月27日(火)～4月13日(金)
- ◇調査対象：当社開催の新入社員研修に参加した新入社員
- ◇有効回答数：645名 <男性360人(55.8%)、女性285人(44.2%)>

■入社動機は「企業イメージがよい」が2年連続で最多に

「入社を決めた主な動機」（複数回答）は、「企業イメージがよい」（35.9%）が最も多く、前年比
+1.6ポイント増加した。昨年、13年連続トップだった「自分の資格や能力が発揮できそう」を逆転
し、2年連続で1位となった。

男女別でみると、男性は「企業イメージがよい」（32.8%）が最も多く2年連続で1位に、次いで
「自分の資格や能力が発揮できそう」（31.9%）となった。女性は「自分の資格や能力が発揮できそう」
（35.0%）が1位となったが6年ぶりに4割を下回った。次いで「企業イメージがよい」（34.7%）は
4年ぶりに3割を超えた。男女とも1位と2位は僅差であった。

図1 入社を決めた主な動機 上位10項目（複数回答）



■自信があるのは「協調性」「忍耐力」、不足しているのは「創造力」

「社会人として『自信がある』もの」（複数回答）は、「協調性」（31.5%）が最も多く、次いで「忍耐力」（26.2%）、「意欲・やる気」（20.7%）となった。男女別でも、男女とも全体と同順位で割合もほぼ同じであった。

一方、「社会人として『不足している』もの」（複数回答）は、「創造力」（28.2%）が最も多く、次いで「体力」（23.9%）、「柔軟性」「社交性」（いずれも 22.8%）となった。男女別では、男性は「創造力」（28.0%）、「柔軟性」（23.4%）、「体力」（20.9%）、女性は「創造力」（28.4%）、「体力」（27.7%）、「社交性」（27.0%）の順となった。

図2-1 社会人として「自信がある」もの[男女別](複数回答)

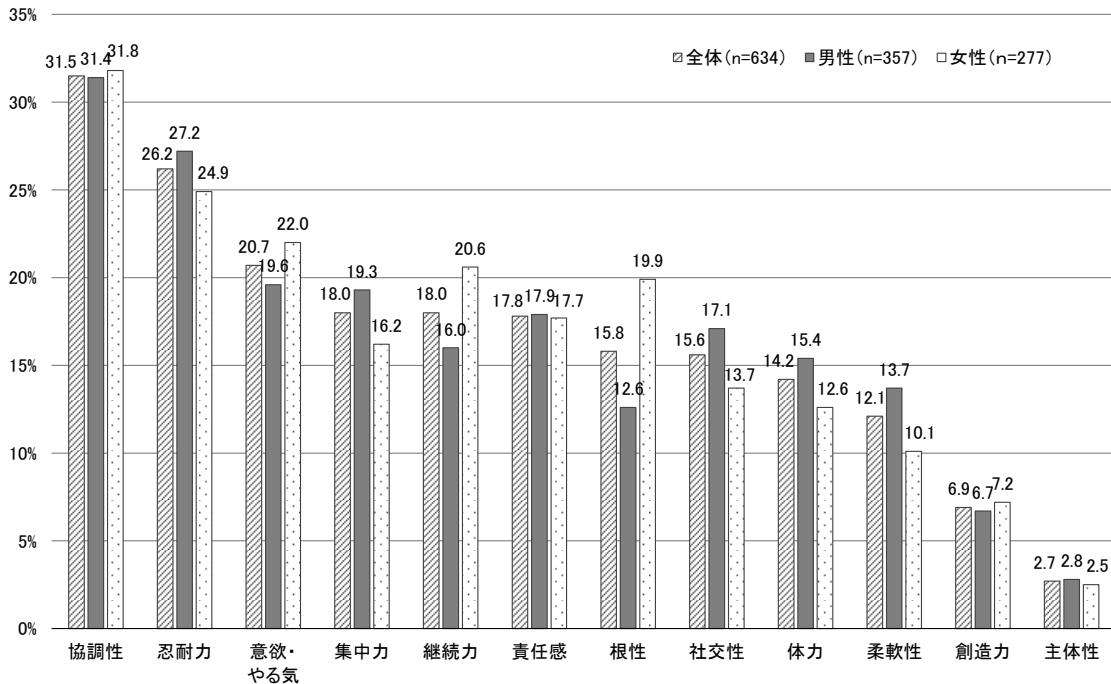
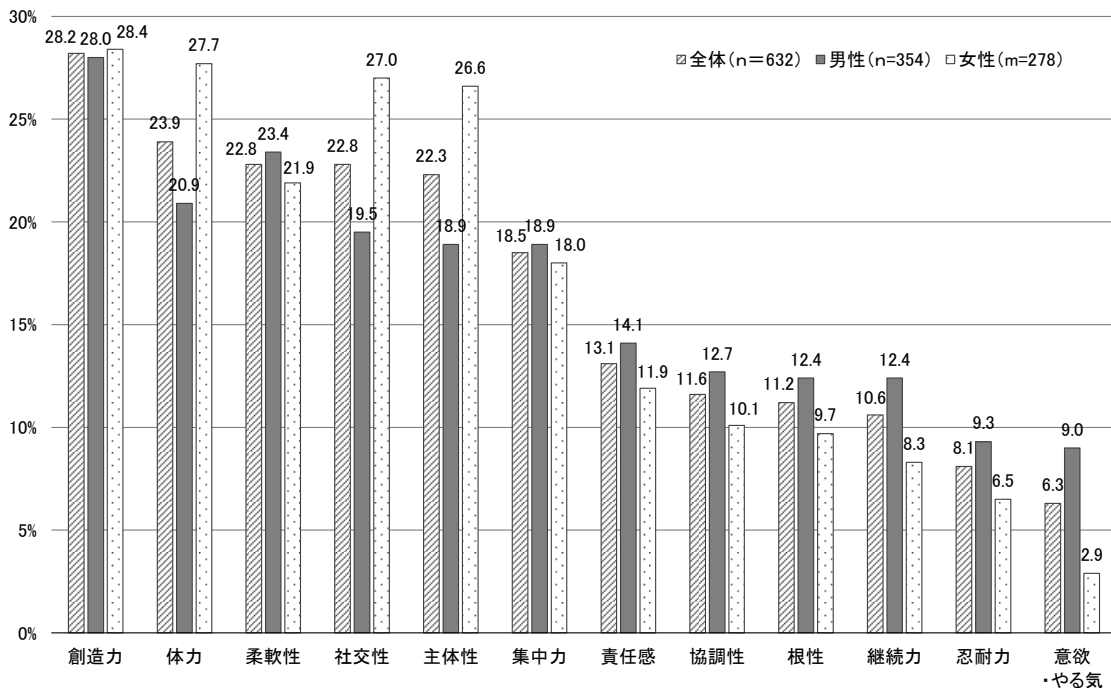
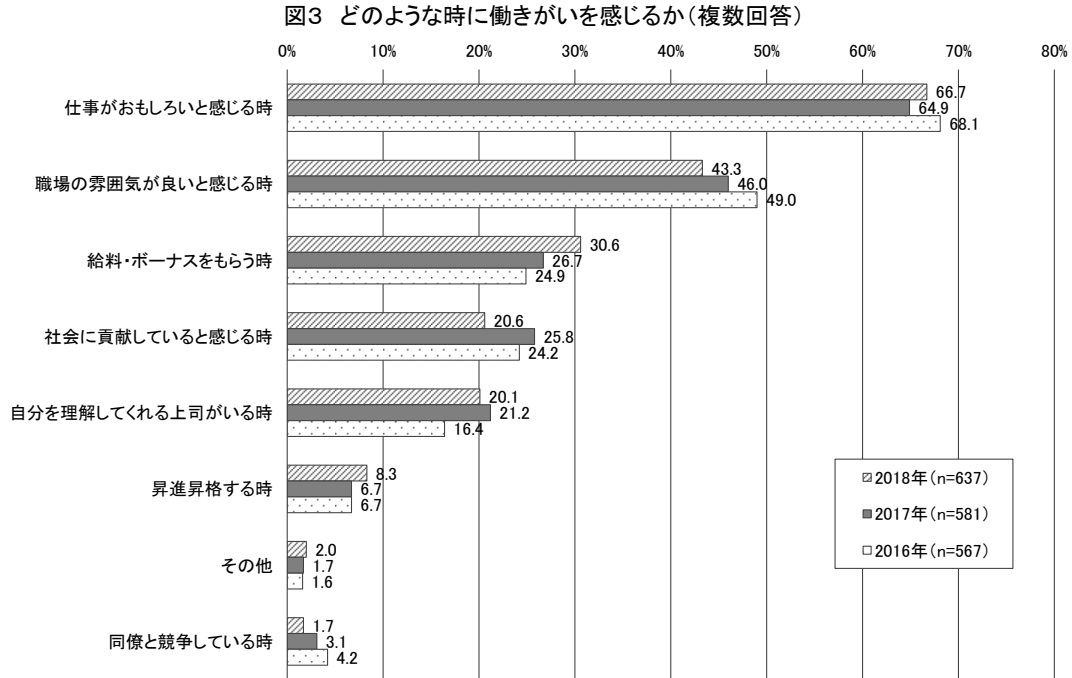


図2-2 社会人として「不足している」もの[男女別](複数回答)



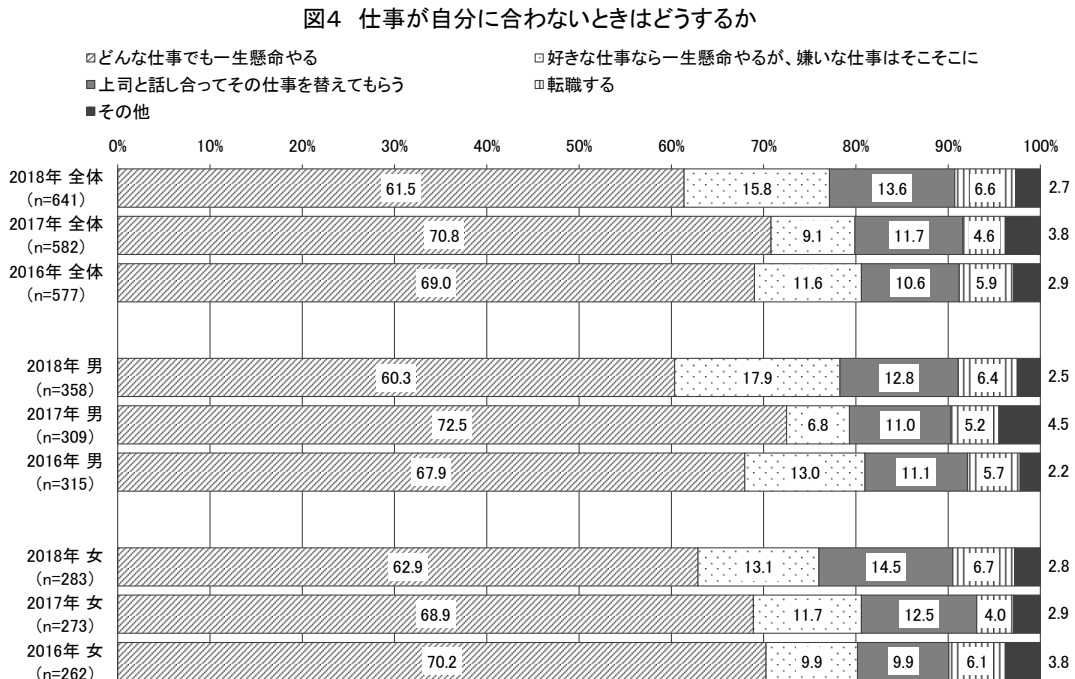
■働きがいを感じるのは「仕事がおもしろいと感じる時」

「どのような時に働きがいを感じるか」（複数回答）は、「仕事がおもしろいと感じる時」（66.7%）が最も多くなったものの、前年比+1.8ポイントと3年ぶりに増加した。次いで「職場の雰囲気が良いと感じる時」（43.3%）、「給料・ボーナスをもらう時」（30.6%）が続いた。「給料・ボーナスをもらう時」は、04年の調査開始以降、初めて3割を超えた。



■「どんな仕事でも一生懸命に」が6割に減少

「仕事が自分に合わないときはどうするか」は、例年どおり「どんな仕事でも一生懸命やる」（61.5%）が最も多くなったが、04年の調査開始以来、最も少なくなった。一方、「好きな仕事なら一生懸命やるが、嫌いな仕事はそこそこに」（15.8%）、「上司と話し合ってその仕事を替えてもらう」（13.6%）、「転職する」（6.6%）は、いずれも調査開始以来、最も多くなった。

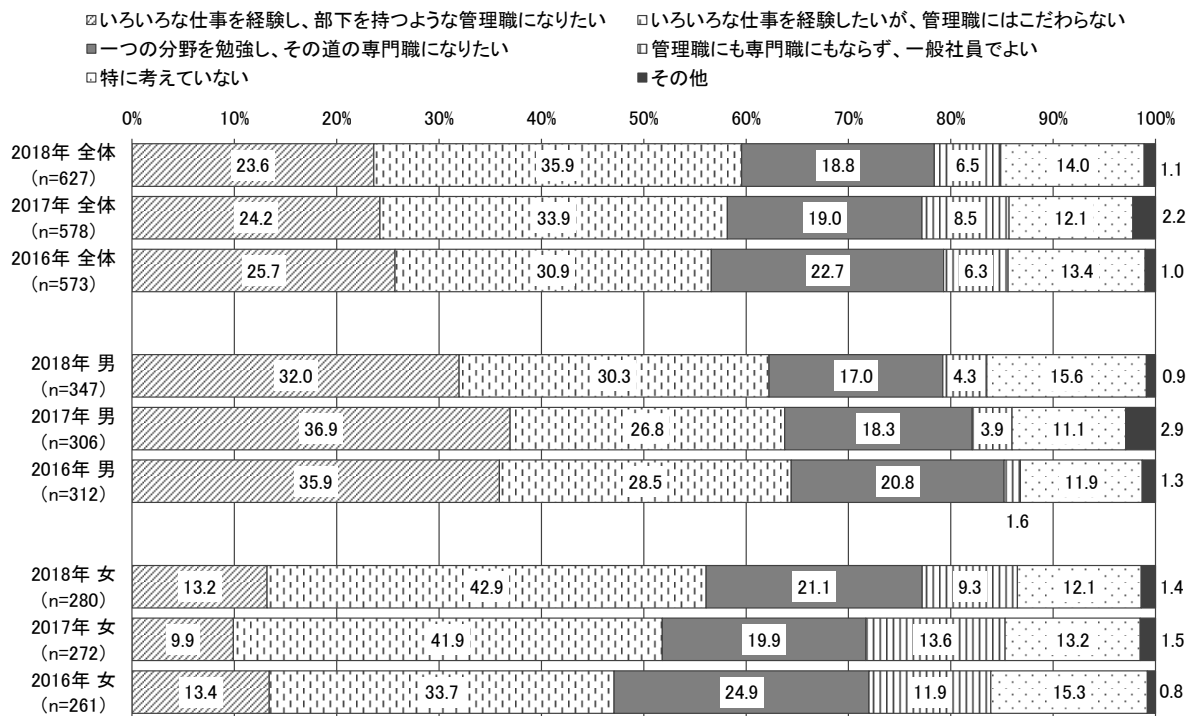


■「管理職にこだわらない」が最多、2年連続で増加

「社会人としてどのような道を歩みたいか」は、「いろいろな仕事を体験したいが、管理職にはこだわらない」（35.9%）が最も多く、前年比+2.0ポイントと2年連続で増加した。次に多い「いろいろな仕事を体験し、部下を持つような管理職になりたい」（23.6%）は、10年（26.7%）以降で最も少なくなった。次いで「一つの分野を勉強し、その道の専門職になりたい」（18.8%）は04年の調査開始以降、最も少なくなった。

男女別では、男性は「管理職になりたい」（32.0%）が最多だが、近年は減少傾向。女性は「管理職にはこだわらない」（42.9%）が最も多く、次いで「専門職になりたい」（21.1%）は8年連続で男性の割合（17.0%）を上回り、2年ぶりに2割を超えた。

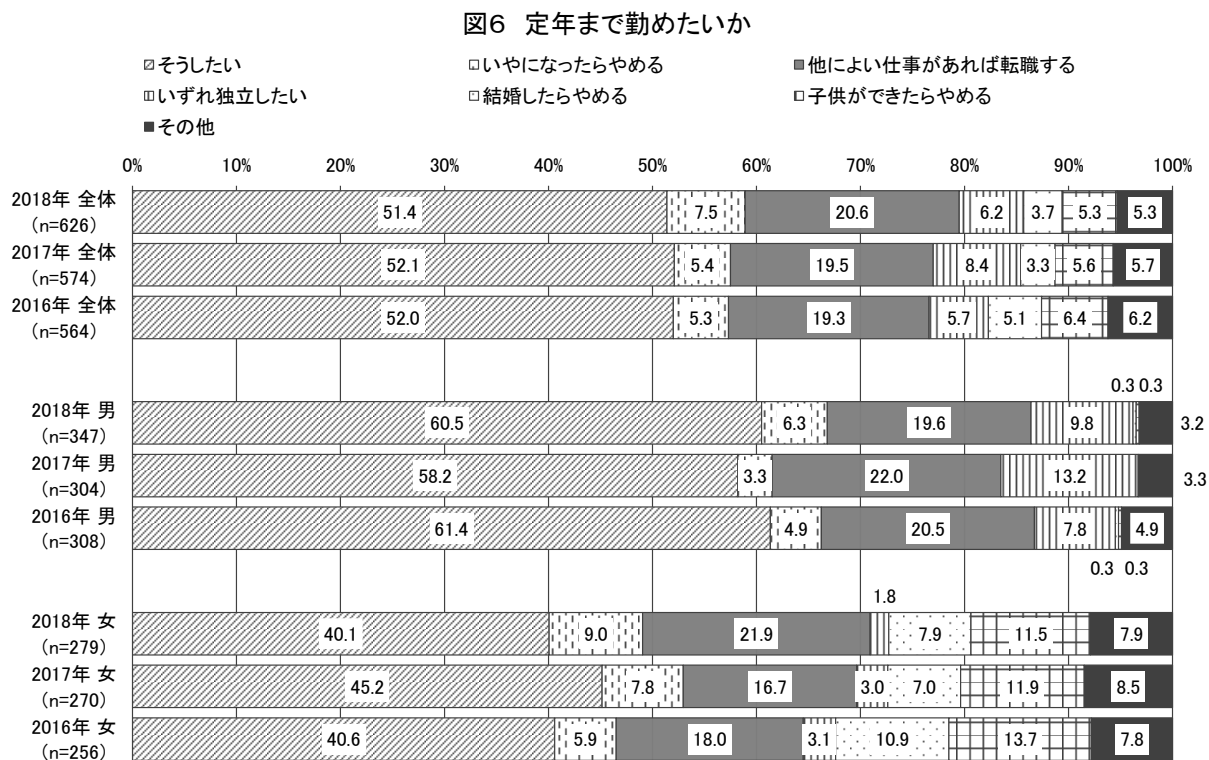
図5 社会人としてどのような道を歩みたいか



■「よい仕事があれば転職」が5年連続で増加

「定年まで勤めたいか」は、「そうしたい」(51.4%)が最も多いものの、15年(57.3%)以降は減少傾向にある。一方「他によい仕事があれば転職する」(20.6%)は5年連続で増加した。安定志向は根強いが、「転職する」と「いずれ独立したい」を合計した〔転職・独立志望〕は26.8%、前年比-1.1ポイントとやや減少したものの4分の1を占めている。

男女別では、最多の「そうしたい」が、男性60.5%、女性40.1%となった。女性の「転職する」(21.9%)は09年以降で初めて2割を超え、男性(19.6%)を逆転した。女性の「結婚したらやめる」(7.9%)は2年ぶりに増加したが長期的には減少傾向、「子供ができたらずやめる」(11.5%)は6年連続で減少した。

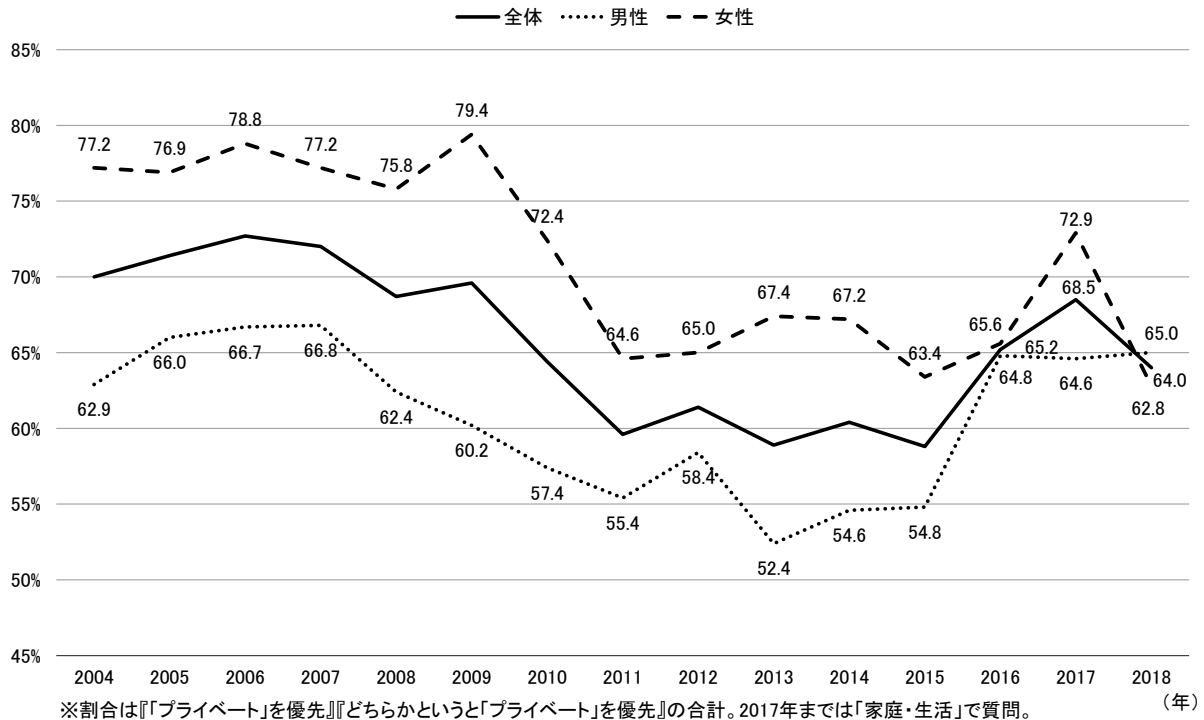


■「プライベート優先」女性が1割減少し、初めて男女が逆転

「『仕事』と『プライベート』のどちらを優先した生活を送りたいか」は、「プライベート」優先（「どちらかという」と含む）が64.0%と前年比-4.5ポイントと2年ぶりに減少した。男性は65.0%（前年比+0.4ポイント）でほぼ横ばいだったが、女性は62.8%と前年比-10.1ポイントと大きく減少。女性は04年の調査開始以来で最も少なくなり、初めて男性が女性を上回った。

※17年までは「会社・仕事」と「家庭・生活」で質問。今年より「仕事」「プライベート」に変更。

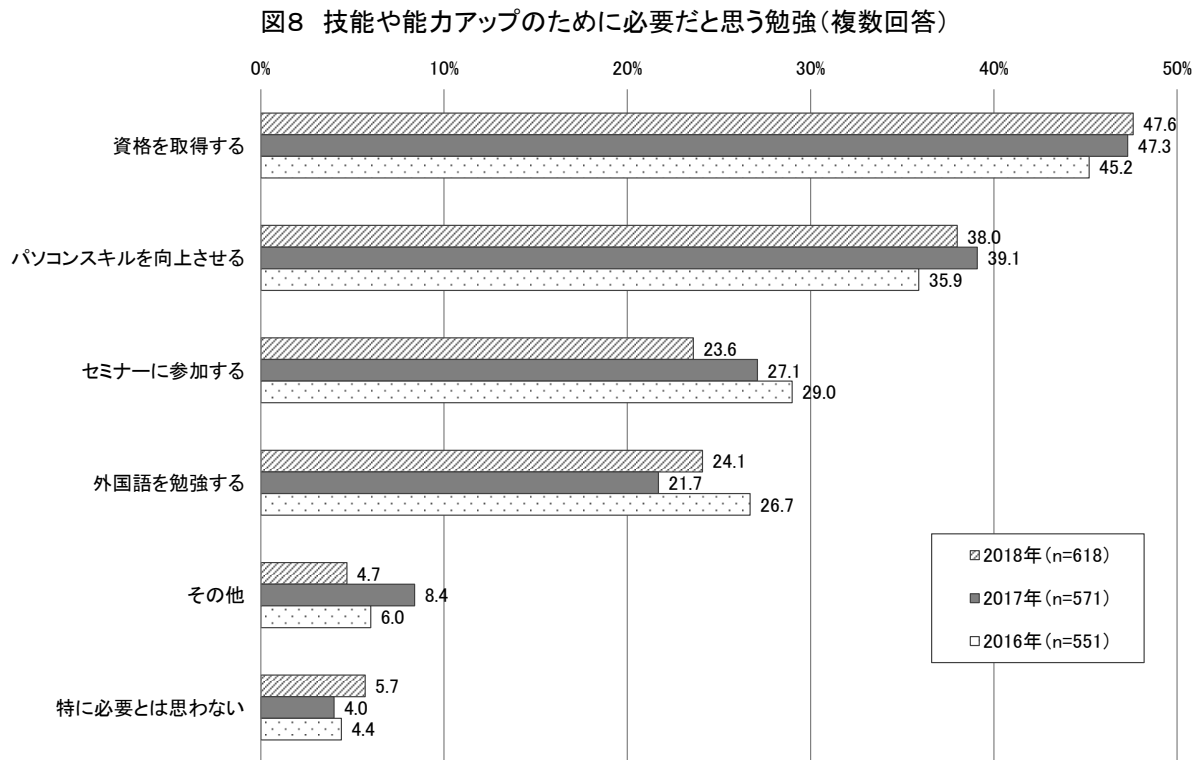
図7 「『プライベート』を優先」する割合の推移(男女別)



■「資格取得」を目指す約半数

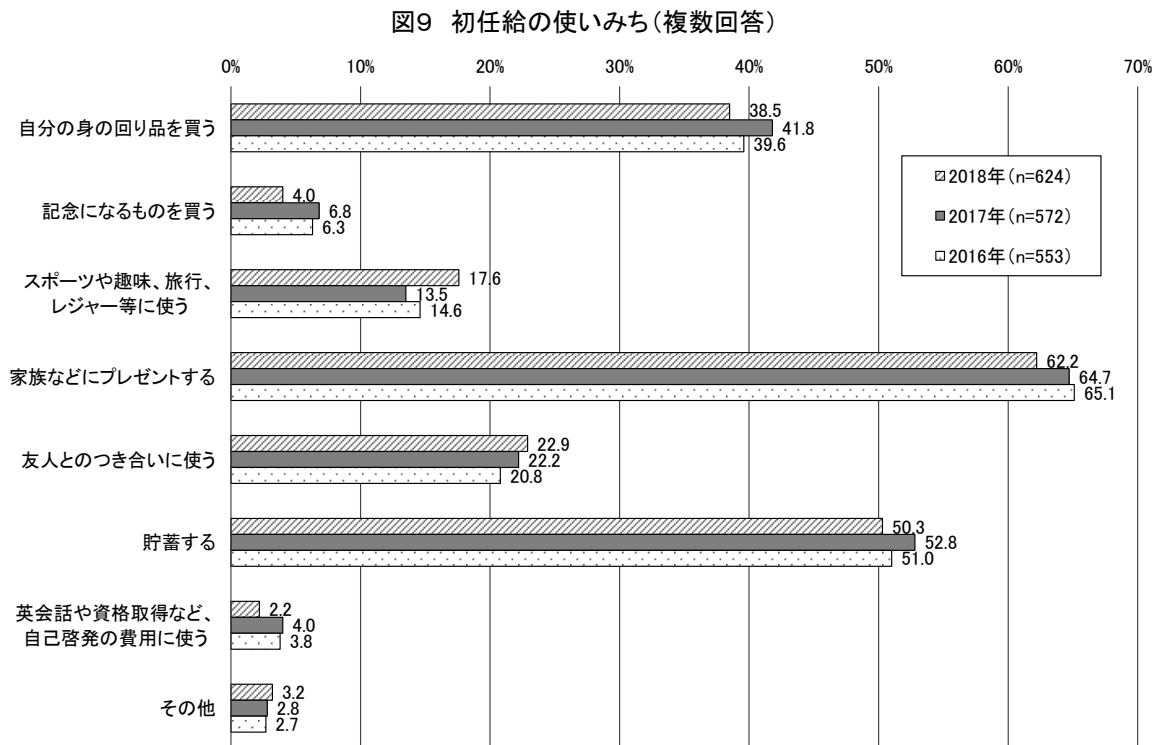
「自分自身の技能や能力アップのために、どのような勉強が必要か」（複数回答）は、「資格を取得する」（47.6%）が最も多く、3年連続で増加した。次いで「パソコンスキルを向上させる」（38.0%）で、5年ぶりに若干減少した。

「資格を取得する」では、建築士（一級・二級など含む）、施工管理技士、危険物取扱者、宅地建物取引士、認定看護師等の資格や簿記等の検定試験といった、業種によって具体的な回答が多くあった。また「外国語を勉強する」で具体的記述があったのは「英語」が111人で最も多く、次いで「中国語」18人、「韓国語」「タイ語」各4人となった。



■初めての給料は「家族へのプレゼント」「貯蓄」

「初めての給料の使いみち」（複数回答）は、「家族などにプレゼントする」（62.2%）が最も多く、次いで「貯蓄する」（50.3%）、「自分の身の回り品を買う」（38.5%）となった。「スポーツや趣味、旅行、レジャー等に使う」（17.6%）は前年比+4.1ポイントと、04年の調査開始以来、最も多くなった。堅実に貯蓄しながら、家族への感謝や自分の楽しみのためにも使いたいということであろう。



■理想の上司は、男性：松岡修造さん、女性：天海祐希さん

「理想とする上司像を有名人に例えると」に対して、男性上司は、元プロテニス選手の松岡修造さんが43人で、3年連続の1位となった。女性上司は女優の天海祐希さんが82人で9年連続の1位であった。

その理由を有名人一人につき最大二つまで選んでもらったところ、松岡修造さんは「厳しく指導してもらえそう」（16人）、「率先して手本を見せてくれそう」「頼りになりそう」「面倒見がよく、何でも相談できそう」（いずれも14人）、の順となり、天海祐希さんは、「仕事ができそう」（39人）、「頼りになりそう」（31人）、「面倒見がよく、何でも相談できそう」（25人）となった。

また、男性の上位5人は昨年と同じ顔ぶれだったが、女性は昨年7位（8人）だった石原さとみさん、和田アキ子さんが4位に入った。

表 理想とする上司像（2018年）

男性の上司	回答数(人)	順位	女性の上司	回答数(人)
松岡修造	43	1	天海祐希	82
明石家さんま	39	2	水ト麻美	44
イチロー	36	3	真矢ミキ	15
内村光良	16	4	石原さとみ	12
櫻井翔	15	5	和田アキ子	12

※男女それぞれ1名をフリーアンサーで回答

以上